

【小学校国語】

小学校 国語	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
	【内容】 <u>知識及び技能</u> ○『言葉の使い方に関する事項』『情報の扱いに関する事項』『我が国の言語文化に関する事項』の全てで、正答率は全国平均を上回っている。 <u>思考力・判断力・表現力</u> ○『話すこと・聞くこと』『書くこと』『読むこと』の全てで、正答率は全国平均を上回っている。 ・『話すこと・聞くこと』において、オンラインで交流する場面における話し方の工夫を考える問題の正答率は、全国平均を上回っているが、全国平均正答率と同様に本校も低い傾向が見られる。 ・『読むこと』において、物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く問題は、全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回る正答率となっている。	●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ●目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたい内容を検討すること。 ●人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ●無解答率は、漢字の記述や自分の考えを文章で記述する問題において、全国平均と同様にやや高くなっている。	○国語科を中心に、他教科・領域の学習においても、自分の考えを話すことで表現する機会を増やし、伝えたい内容を検討する経験や目的や意図に合わせた資料を用いて効果的に表現する経験を積み重ねられるようにする。 ○どの領域においても、書く目的や意図、条件等を明確にし、構成を考えながら文章を書くことを繰り返すようにしていく。また、日常的に、漢字を用いる機会を増やしていく。

【小学校算数】

小学校 算数	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
	【内容】 <u>知識及び技能</u> ○『数と計算』『図形』『変化と関係』『データの活用』全てにおいて、全国平均を上回っている。 ・表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する問題の正答率のみ、全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。 <u>思考力・判断力・表現力</u> ○『数と計算』『図形』『変化と関係』『データの活用』の全てにおいて、全国平均を上回っている。 ・球の直径の長さとは立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す問題の正答率は、全国平均を上回っているが、全国平均正答率と同様に本校も低い傾向が見られる。 ・道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題の正答率は、全国平均を上回っているが、全国平均正答率と同様に本校も低い傾向が見られる。	●グラフの特徴を理解し、表したり読み取ったりすること。また、データの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を理解すること。 ●図形を構成する要素に着目し、図形の性質を見いだして、既習の図形を捉え直すこと。 ●無解答率は全国と比べてほぼ同程度である。記述式の問題や後半の問題において、無回答率は高くなる傾向が見られる。	○表やグラフは他教科や日常の様々な場面で活用することが多いので、読み取ったことを生かして問いにつなげたり、学びを深めたりすることを日々の学習にも取り入れていく。 ○知識の確かな習得を目指すと共に、それを応用的に用いる場を設定する。また、授業後も繰り返し過去の学習を振り返る機会を設ける。 ○どの領域においても、自分の考えを言葉と数を用いて記述する学習活動を取り入れる。

◇生活習慣や学習環境に関する質問紙調査結果について

肯定的な回答が多かったもの

* ()は、全国の数値

☆先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。91.8% (89.9%)

☆学校に行くのは楽しいと思いますか。90.6% (84.8%)

☆分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。
90.6% (80.7%)

☆授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。94.1% (91.4%)

本校の重点目標「キラリ輝く二条」の実現に向けて、共に学び合い、高め合える教育活動を進めています。教職員も子どもたち同士も、子どもたち一人一人の『キラリ』を大切にしてきたことが、「先生がよいところを認めてくれている」「学校に行くのは楽しい」などの肯定的回答に繋がっていると考えます。

学習の計画については、宿題の一環として自主学習を位置付け、自分に必要な学習を自分で考えて行う機会を設けてきたことや子どもたちが計画を立てやすいよう、自主学習ノートを共有し合ったり、ヒントを示したりしてきたことなども、「自分で学び方を工夫する」主体的な学びの姿勢に繋がっていると考えます。また、日々の授業の中に協働的な学びの機会を多く設定することで、学校生活の中で互いを尊重して活動する力が子どもたちの中に定着していくことをこれからも目指していきます。

肯定的な回答がやや少なかったもの

* ()は、全国の数値

☆将来の夢や目標を持っていますか。61.2% (60.6%)

☆困り事や不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。68.2% (67.1%)

☆5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか。
ほぼ毎日→15.3% (25.3 %)

6年生のキラリ学習（総合的な学習の時間）で、キャリア教育に関わる単元を充実させてきたことで、「将来の夢や目標を持つ」ことへの肯定的な回答が令和5年度に比べ増加したものの、まだやや少ない傾向にあると考えます。キャリアパスポート、児童面談、教育相談を活用し、スモールステップから、子どもたちと共に「目標」や「達成のための方法」を考えていきます。成功体験を価値付け、子どもたちが小さな自信を積み重ねながら、職業に限らない将来に向けての夢や目標を抱けるよう引き続き関わっていきます。また、「困り事や不安がある時に相談できる」ことへの肯定的な回答もやや少ない傾向にあるので、今年度から導入された「シャボテンログ」の取組も生かしながら、より一層子どもたちの「心」に寄り添う関わりを大切にしていきます。

ICT 機器に関しては、使う頻度に終始することなく、必要に応じて学ぶ方法やまとめる方法を選択しながら効果的に活用する姿を目指し指導を続けていきます。また、ネットモラルやネットリテラシーについても、指導していきます。ご家庭でも『さっぽろっ子 ICT 活用のススメ』を通し、子どもたちがどのように端末を活用し学習を進めていくとよいか、是非話し合ってみてください。